

Scoop

2001年1月

ランサーエボリューションVII

三菱

デビュー直前 1月30日発表！／2月3日発売！
ランエボVIIのすべてを見た！

過熱を極めたランサーエボリューションVIIのスクープ合戦（？）も、ついに終幕を迎える。本誌発売4日後の1月30日、エボVIIは正式に報道発表され、2月3日に発売となる。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

ついに300万円を切ったスーパープライス！GSRは299.8万円
強烈なダンデライオンイエローをイメージカラーとするエボVII。バンパースポイラーにビルトインされていた補助ランプもヘッドランプユニットに組み込まれ、スマートさを極める。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

レカロ製リクライニング式フルバケットシートを前席に装備。新デザインで、エボVIIのシートに比べ1脚あたり3kgもの軽量化を図る。

専用本革巻きステアリングはMOMO製。エアバッグを内蔵するパッドのリング状デザインは、シフト部とイメージを統一。

イメージカラーは鮮烈なダンデライオンイエローだ！

本誌スクープ班では、いまお見せできる限りのカラー写真をここに掲載し、エボVIIスクープの最後を締めくくりにしよう。

エボVIIは、従来のエボとはエクステリアの印象からして大きく異なる。レーシ

ングマシンとして、勝つための”最終兵器”として、ポテンシャルを最優先した無骨なイメージを次第に強めてきたこれまでのエボ。ウィッカーまで装備した複翼リアウイングや後付け感の強いオーバーフェンダー、大型の補助ランプをビルトインしたバンパースポイラーなどは、それだけで周囲を威嚇しつつ、エボならではのポテンシャルをアピールするかのようだった。

ところがどうだ、このエボVIIのスマートさは。オーバーフェンダーから一体型ブリスターフェンダーへと改められたリアフェンダーをはじめとする各部のディテールは、もちろん”闘うマシン”として必要なものには違いない。



[↑ zoom](#)

●新開発ACD、AYC、スポーツABSを統合制御する4WDシステムが武器
電子制御クラッチを使ったアクティブセンターデフ（ACD）を新搭載。スポーツABSは各車輪速や操舵角までセンシングしている。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

エボ専用デザインのメーターは、レッドの透過照明が美しい。切り替え式ACDの使用モードも、ここに表示される。

●三菱最強エンジン「4G63」をさらにポテンシャルアップ！
エボ伝統の4 G63型エンジンは吸排気系の改良や冷却系容量の拡大、各部の軽量化などで中低速トルクをアップしている。

RS

不要な装備を省き、シートやホイールも最低限のものとしている競技ベース車両「RS」は、車両本体価格を251.8万円に設定。インプレッサの競技ベース車両である「RA」は16インチ仕様で296.8万円だ。ボディカラーはスコーティアホワイトのみ。オプションでAYC、ACDの選択のほか、薄板ボディ仕様（ノーマル比約1kg軽量）、スーパークロスギアレシオ（サーキット用）なども設定されている。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

しかし、三菱の開発陣も「エボVIIでは高品質感を重視し、大人が乗りたくなるスポーツカーとしての資質も兼ね備えた」と語るとおり、いままでのエボにはない1モデルとしての”完成度”が感じられる。もはや、セディアの派生（進化）モデルというより、独立したひとつのスポーツカーブランドとすら言える領域ではないだろうか。

また、発表直前にきて判明したその価格も、驚くべきものがある。これほど手間をかけて完成されたスーパースポーツセダンが、なんと300万円を切るプライスで手に入るのだ。ライバルのインプレッサWRX・STiが319・8万円なのに対し、エボVII GSRは299・8万円。ちょうど20万円の差は、ルックスやポテンシャルに匹敵する、エボVIIの強力な”武器”になる！

エボ・ユーザー向けティーザーDMにはニュルのテスト風景満載！



[↑ zoom](#)

届いた封筒の中には、長細い8ページもののパンフレットが。表紙に「in NÜRBURGRING」と書かれている。



[↑ zoom](#)

エボVIIまでの既納ユーザーを狙って販売店ではすでにDMを配布し、ティーザーキャンペーンを展開。



[↑ zoom](#)

そのミニパンフレットの青い表紙をめくると、そこにはニュルのコースをテスト走行するエボVIIの姿が、ところ狭しと並んでいた。



[↑ zoom](#)

しかし、肝心のスペックには何ひとつ触れていないところがミソ。「知りたい方は販売店にきてください」とは書いていないが……。

デカっ羽根のランエボVII発表前にみんなで触りまくり！

高知県の匿名希望サンから届いた何枚もの写真。そこには発表前のランエボVIIと新デインゴ、トッポBJが擬装なしのスピン姿で写っており、スクープ班も思わず「オォ！」と声をあげてしまった。

投稿主のハナシによると、これらの写真は1月13&14日に県内で行われた「三

菱RV&4WDフェア」で撮影したもので、発表前の3車が堂々と展示されていたとのこと。ドアロックも解除されていて、運転席やエンジンルーム、ラゲッジスペースを自由に見ることができたそう。

ディーラーが主催したこのイベントは、どうやら商談会を兼ねたもので（こっちがメインか?!）、近日中に登場する新型車をひと足先に披露してユーザーの関心を引くのが狙いだった模様。決算期に向けて、1台でも多く売りたいディーラーの熱意がよく伝わってきた写真だ。

アナタの街でも、同じようなイベントが開催されているかも。遭遇したら、ぜひ写真を送ってくださいネ。



[↑ zoom](#)

三菱ニューモデル
ガーニッシュに「EVOLUTION」の文字が光り輝くインパネ。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

「参考出品車」として展示されたランエボVII。運転席にも自由に座れる状態だった。

真っ赤なヘッドカバーが印象的な4G63型2リットルターボエンジン。(写真右)

▲戻る









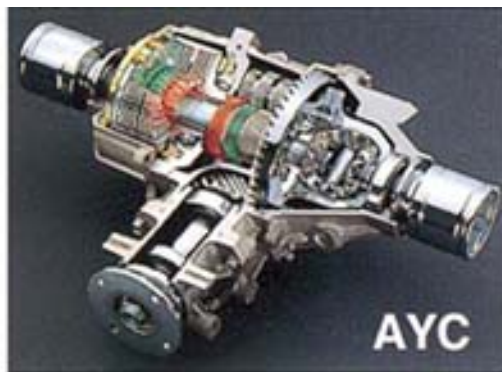
社 外 秘

発注者につき、取扱いには
注意してください。

LANCER EVOLUTION VII

Heart-Beat Motors

















EVOLUTION in NÜRBURGRING

NÜRBURGRING

そのクルマは、
ニュルブルクリンクにいた。
完成度と品質の
さらなる進化を遂げるために。

Nürburgring
全長20.832km、最高速300km/hとして1925年に完成したコーナーを持つドイツのサーキット。クルマにとって世界でも最も苛酷といわれているこのサーキットを走ることは、一流のスポーツカーにたって負けて通ることの困難な通過関門である。



The EVOLUTION

ニュルブルクリンクで、次の進化ははじまった。

世界の名だたるスポーツカーが
決戦を受けることで知られるニュルブルクリンクサーキット。
そこに、そのクルマはいた。

"The EVOLUTION"
走るために、勝つために生まれてきた。
世界でも希有な存在。
開発途中と思われるそのクルマは、
まるで踊るように伝説のサーキットを駆け抜けていた。
そう、今まさに次への進化を遂げようと、
そのクルマは躍動していた。

"The EVOLUTION"
進化し続けるそのクルマの断片について、
あなただけにご報告します。





3rd Generation



それはレベルの違う進化だった。

ランサーエボリューションまで全3世代。が、一歩もどき第2世代と異なれば、そのクルマは明らかに第3世代と呼べるものだった。一旦別次元まで到達したスタイリング、驚異的なパワー。そして前代くらばかなりのコーナーアンダーステアード。そこにはまでの器で飛躍的な進化を遂げたものだけが持つ圧倒的な存在感があった。

売壁という名の美しさがある。



そのスタイリングは「美しい」としか形容のしようがなかった。タフでアグレッシブなエボリューションヘルツに違いないが、そこには新たに気品が混ざったように感じた。存在感もひとまわり大きくなったように感じた。その印象が、クルマの性質とも異なるパフォーマンスから受けたイメージなのか、事実なのかは確かめようもないだが。

Brand New Styling

Brand New Handling



見事なほどのハンドリングがある。

そのクルマは思いどくようにコーナーを曲がっていく。
まるで、そこにレールが引かれているかのように。
4輪のそれぞれが、まるで意志を持っているかのような
微妙な制御から生まれる、軽快なフットワーク。
そのあまりにも華麗なほどにコーナーを駆け抜けていく前に、
自分自身でステアリングを握りたいと思わずにはいられなかった。

Brand New Power



未だかつてないパワーがある。

コーナーから立ち上がり、直い直線に出ると、
そのクルマは驚異的な加速を見せつけた。
速い、加速にすると平凡だが、そのパワーは非凡だった。
直い直線を通りつれ、そのクルマは加速も緩めていく。
まるで永遠に加速し続けるのではと思った瞬間。
そのクルマは強烈なブレーキングとともに
コーナーをクリアして姿を消した。

最速ラップタイム
8'14"85
（1-800mの平均値）
ランサーエボリューションVII
（1-700mの平均値）
8'31"90
（1-700mの平均値）







